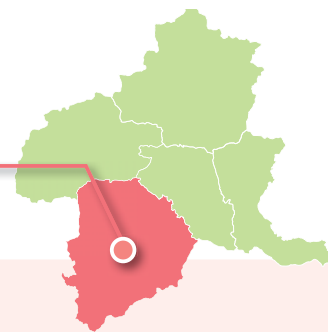


西部地域



地域の特色や課題

西部地域は県南西部の4市3町2村からなり、河川沿いの平坦地域から山間地域まで地形変化に富んでいます。それぞれの地域の自然環境の特色を生かして野菜、果樹、花き、米麦、こんにゃく、畜産など多品目にわたる多彩な農業が展開されています。

特に榛名山南麓及び碓氷川流域は、うめ、なし等を中心に県内有数の果樹産地が形成されています。また、松義台地にはこんにゃくを中心とした大規模な畑地が広がっています。

西部地域の農業・農村では、担い手の確保、農地の集積、産地の育成・強化、地域資源を生かした中山間地域の農業振興、鳥獣被害対策の強化などが課題となっています。



こんにゃく栽培風景

基本方向

■ 地域農業を担う多様な農業者の確保・育成

- 新規就農者や就農希望者を支援し、就農後の経営安定と定着を図ります。
- 認定農業者や女性農業者の農業技術・経営管理能力の向上を図り、地域農業の牽引役となる人材を育成します。
- 集落営農組織の法人化等を支援し、地域農業を担う組織経営体の体質強化を図ります。
- 人・農地プランや農地中間管理事業等を活用し、担い手への農地の集積・集約化を推進します。

■ 地域の特色を生かした攻めの農業

- 地域の自然環境を生かし、多彩な農産物の生産を振興するとともに、産地の育成・強化を図ります。
- 水田フル活用による飼料イネ、飼料用米、麦類等の作付拡大と生産性の向上を推進するとともに、売れる米づくり・麦づくりを進めます。

■ 農商観連携による販売力強化

- 地域農産物に対する消費者の認知度の向上や加工品等による高付加価値化を推進するとともに、販路拡大の取組を支援します。
- 地域の観光資源を生かした農産物の販路拡大を推進します。
- GAPによる安全性の確保や特別栽培農産物、有機農業等による環境にやさしい農業を推進します。

■ 農業生産基盤の整備・保全と農村環境の維持・継承

- 農業の生産基盤である農地と基幹的水利施設の保全対策を推進します。
- 多面的機能支払交付金や中山間地等直接支払交付金の活用により、耕作放棄地解消や末端水路の保全管理を推進します。
- 野生鳥獣被害を軽減するため、侵入防止柵の設置や有害鳥獣捕獲、指導者の育成等を支援します。
- 地域資源を生かして都市農村交流等を推進し、農山村地域の活性化を図ります。

■ 資源循環型農業の推進と家畜伝染病の発生予防

- 堆肥の有効活用を推進し、自給飼料等の生産拡大と利用促進を図ります。
- 特定家畜伝染病等の発生防止に努め、関係者と連携した防疫体制の強化を図ります。

地域重点プロジェクト

A 日本一の露地なす産地づくり

露地なすは、西部管内5JAにそれぞれ産地が形成され、全国トップレベルの生産を誇る群馬県の中でも主要産地となっています。生産意欲も高く、産地がよく連携、情報共有し、活性化に積極的に取り組んできました。

今後、産地をさらに発展させていくため、新規栽培者の確保・育成、栽培管理や病害虫防除技術の向上などによる生産拡大に取り組めます。また、消費者からの信頼を高めるためには、GAPによる生産管理の徹底、IPM技術導入による環境に優しい農業への取組が必要とされています。

推進内容

- なす新規栽培者確保、育成
- 補助事業活用による露地なす生産拡大
- IPM技術導入による環境に優しい農業への取組
- GAP手法による管理技術の改善



露地なす

担い手育成



新規栽培者現地研修会

補助事業活用



V字支柱導入

環境に優しい農業



バンカープランツ活用

GAPによる管理



農薬などの保管チェック

数値目標

目標指標	単位	平成26年(基準年)	平成31年(目標年)
西部5JA 露地なす出荷量	t	3,974	4,180
IPM技術導入農家数(マリーゴールド作付)	戸	25	100

B 榛名南麓のなし産地の活性化

本県の基幹果樹の一つである「なし」は、西部地域が栽培面積の約7割を占めています。特に榛名南麓は県内一の産地となっていますが、新たな担い手の育成、消費者ニーズへの対応、消費拡大等が課題となっています。

このため、なし産地を支える担い手への技術支援をはじめ、消費者ニーズをとらえた品種更新や品質向上、販路拡大へつながる加工品開発など、産地活性化のための幅広い支援が必要です。

推進内容

- 基礎技術の習得と経営改善による担い手の育成
- 優良品種の導入推進
- 販路拡大のための加工品開発



榛名南麓のなし園

数値目標

目標指標	単位	平成26年(基準年)	平成31年(目標年)
なしの品種更新面積	ha	—	4
なしの新規就農者数(累計)	人	6	19

C 西上州の山村を元気にする農業振興

県西部の上野村、神流町、下仁田町、南牧村の山間地域では、急傾斜矮小耕地、鳥獣被害、輸送等、厳しい条件による農業者の減少、農業生産力の低下が問題となっています。そこで、地域の特徴を生かした花き・山菜類等の地域特産物や加工品の生産、都市と農村との交流促進、さらに鳥獣被害対策を講じて、地域を支える農業振興を図る必要があります。

推進内容

- 農業の担い手確保支援
- 花き、山菜等の地域特産物振興
- 特徴的な農産加工品の生産・販売支援
- 地域資源を生かした観光との連携強化
- 鳥獣被害対策支援



山間地での花き栽培
技術指導

「しそまき」の製造

数値目標

目標指標	単位	平成26年(基準年)	平成31年(目標年)
新規農産物・加工品販売品目数	品目	—	16
道の駅農産物等販売金額	千円	182,251	191,400

④ 松義台地における土地利用型農業の推進

西部地域は、県下有数の畑作地帯となっており、特に富岡市と安中市に跨がる松義台地においては大規模な基盤整備が行われています。本地域の農業の維持・発展のためには、担い手農家へ農地を集積する必要があります。

このため、こんにゃくを中心とした、ねぎ、ごぼう、なす等、多彩な作物の導入を進め、高生産性の土地利用型農業を推進していくことが必要となっています。

推進内容

- 松義台地の生産基盤整備の推進
- 担い手への農地集積
- 農地の保全管理及び鳥獣被害対策の支援
- こんにゃくを中心とした、ねぎ、ごぼう、なす等多彩な作物の導入推進



数値目標

目標指標	単位	平成26年(基準年)	平成31年(目標年)
松義台地における整備面積(累計)	ha	215.2	254.0
松義台地における担い手への農地集積面積	ha	76.9	90.2